

米商進路だより

令和3年10月4日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第16号）

《 地域の力！地域の魅力！ 》

9月30日（木）に「置賜の企業」を知ることが目的にした合同企業説明会を開催し1年生83名が参加をいたしました。文字通り「企業を知る」ことがねらいであり、企業名と販売する商品やサービスを知ること、2年後の就職活動をするときの一助にしてほしいと考えています。参加した企業からは、サンプル商品等を配付してくれたところもあり、「見て」「聞いて」「確かめて」理解を深めることができました。

今回参加をいただいた企業は22社で、本校の卒業生（8名）が来てくれたところもあり近況報告を交えながら、仕事の内容を話してくれたのは生徒の皆さんにとっては心に響く内容だったと思います。事前のアンケート調査では、参加した企業を知っているのは平均すると3社でしたが、教室に戻ってからお互いに情報交換をすることで企業名を覚えることができましたか???

3年生にとっては、合格内定をいただいた企業があり身近に感じる人がいるのかもしれない。昨年12月に本校で開催した職業体験会（現3年生が対象）で、体験した企業から合格内定を頂いた人が5名程度いることを考えれば、今回の企画も大いに意義のあることです。就職活動は、最初の「きっかけ」が大切であり「面白そう」「やってみよう」「なるほど」という興味関心を持つことがスタートです。

《 参加いただいた企業の皆様 》

精英堂印刷	日建設備	東北警備保障	サクサテクノ	米沢食肉公社
パルコモード	エービーエム	エフ・シー・エス	米沢牛黄木	米沢弘和会
上杉城史苑	SUMCO	タカハタ電子	AGC	SWS東日本
日本重化学工業	クアーズテック	喜助	テン・ソフトウェア	
米沢ダイヤエレクトロニクス		ゼオンケミカル	三木パワーコントロール	



《 第3回 1・2年生 進路達成へのアドバイス(本校教職員から) 》

「反面教師」という言葉があります。教師が使うべきでない言葉だと思っています。悪い手本という意味です。それでも、今回は使わざるを得ません。私の進路選択については、まさに「反面教師」だからです。

私は高校の数学教員という職業を選択したわけですが、初めから目指していたのではありません。私の高校時代は何の目的も見いだせず、従って勉強もせず、そして友達もなく、ただ暗い時間だけが流れていました。そのような生徒だったので、選択が強いられる節目では、消極的な選択しかできませんでした。高校2年の文理選択では、文系的センスが全くないという自覚があったので、理系に進むしかありませんでした。大学の学部学科を選ぶときは、理科は赤点を取るほど苦手だったので、理系で理科がだめなら数学しか残っていません。ただし、数学は好きな方でしたが全く得意ではなく、いつも平均点との戦いに敗れていました。高校3年になり、さすがにこれではまずいと気づき、唯一残された数学を一から勉強し直すことにしたのです。そして、幸運なことに、理学部数学科に進むことができ、結局は数学の教員になっていました。

みなさんには、私のような消去法的な進路選択はしてほしくないと思います。(S先生)

私の高校時代、進路(国公立大学進学)決定で最も重要であったかということ、共通試験において、5教科7科目(国・数・英と理と社は2科ずつ選択)で、1000点満点中で何点取ることができるか、ということにあった。偏差値という物差しで合格難関度が測られ、その実力に見合った学校や学部を選択するという意志決定であった。

それでも変わらない希望はあった。県外への進学だった。また、あえて変更した希望もあった。当初は文学部史学科に進みたかったが、将来の就職の間口を考え、法学部もしくは経済学部に変更した。

共通試験を経て、関東の某大学へと進学することになったが、自分の意志というより試験結果で流された道であるように最初は思った。しかし、県外で学んだこと、経済学部で学んだことに明確な意志はあったし、それが大きな道標になっていたと感じる。教職を志すきっかけは、県内に戻る手段の一つとでしかなかった、教育実習を経験するまでは。ただ、県外の大学でなかったら、経済学部でなかったら、教員にはなっていなかったと思う。ひとつの目標に向かってきた道というより、何かに誘われてたどるべき道程だったような思いで今はいる。

私が言えることは、「今何になりたい」ということが明確に見当たらなくても、今やるべき最善を考え取り組んでいることで、不思議な力がきっとあなたを導いてくれるだろうということだ。(O先生)

私の進路はスポーツを通して決定しました。ただし、指定推薦ではなかったので大きなチャレンジでしたが、後先考えずに受験した記憶があります。今思えば無謀だったとは思いますが、だからこそ、今の自分がありこうして皆さんと出会うことができたのだと満足しています。(N先生)

私は高校入学時から将来の夢ははっきりと決まっており、目標という面では悩むことはありませんでしたが、大学進学する上で内申点が重要ということを知り、急に点数が上がることであり得ないと思っていたので、2年生から勉強に対する意識を変えました。また、国公立・私立どちらも実技試験があったので、部活動の先生に協力していただき、対策を始めたこともありました。自分がこうしたい！ということとはよく親や先生に伝えていたので、それが自分への良いプレッシャーになっていたのかもしれません。(K先生)

前回の執筆は、安部朋子先生、和田陽先生、石川圭子先生、川村哲大先生です。